

PTAハンドブック2024



はじめに



お子様のご入学、ご進学、おめでとうございます。

次代を担う子どもたちの健やかな成長は、私たち大人の願いです。
本区の教育の基本的な考え方を示す「杉並区教育ビジョン2022」では、
大切にしたい教育として、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を掲げ、
子どもも大人もすべての人が、生涯にわたって、
学び合い、教え合い、かかわり合う教育の当事者としています。
PTAの活動も、子どもたちが学校で、地域で、
より豊かに「しあわせ」に成長していく上で、大きな役割を果たすものです。

本ハンドブックは、PTA活動の参考となるよう、
PTA会長経験者によって設立された
「NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク」のご協力を得ながら、
PTAの目的や具体的な活動等についてまとめたものです。
前半はPTAについての基礎知識、
後半は運営のヒントとなる取組事例を記載しました。
杉並の教育を「共に学び 共に支え 共に創る」ため、
皆様のお役に立てれば幸いです。

PTA活動でお困りの方の相談を随時受け付けています。

NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワーク

受付時間：午前10時から午後6時（祝日・年末年始を除く）

受付方法：電話03-5347-2372 / Eメール pta@sanet.jp



第1章

PTAの基礎知識

PTAってなんだろう	1
PTAの位置づけ	2
PTAは何ができる？	3
会員、非会員について	4
コラム①「会員にとってプラス面は？」	5

第2章

単位PTAの具体的な活動とは？

PTA規約(会則)について知ろう	6
どうして？規約を明文化する理由	7
PTAの組織図	8
「民主的」な運営が大原則	9
活動計画と予算	10
係の種類と、活動への関わり方	11
役員会の役割	12
各種委員会の役割	
「学級委員会」	13
「広報委員会」	14
「地域委員会／校外指導委員会」	15
「成人教育委員会／文化委員会」	16
「選考委員会」	17
保険について	18
コラム②「〈参考〉こんな活動も！」	19
気をつけよう！個人情報の取り扱い	21

第3章

PTAに関わる団体・機関・人

PTA(連合)協議会(P協)	23
分区	24
教育委員会と教育委員会事務局	25
青少年の健全育成	26
子育て応援・児童館事業	27
地域と共にある学校づくり	28
安心安全	29
頼れる教育者	29
家庭教育の支援	30
PTA活動に関わる連絡・相談窓口	31

第4章

活動のヒント 取り組み事例

ノウハウ①～委員選出の工夫	33
学級委員会の活動事例	34
広報委員会の活動事例	35
地域委員会／校外指導委員会の活動事例	36
成人教育委員会／文化委員会の活動事例	36
選考委員会の活動事例	37
ノウハウ②～仕事との両立。みんなはどうしている？	38
ノウハウ③～委員会の開き方	39
ノウハウ④～会議進行の工夫	40
ノウハウ⑤～議題のあげ方(運営委員会の開き方)	41
ノウハウ⑥～規約の改正	42
ノウハウ⑦～印刷物の作り方、出し方	43
ノウハウ⑧～活動の輪を広げる工夫	45
ノウハウ⑨～男性も活動する工夫	46
ノウハウ⑩～ITの活用	47



第1章

PTAの基礎知識

PTAってなんだろう

PTAとはそもそもどのような団体で、何を目的に活動するのでしょうか？
PTAへのイメージはさまざまです。初めての経験でよく分からず、戸惑うことがあるかもしれません。

この章では、はじめに知っておきたいポイントをまとめます。

子どもたちの育つ環境をよりよくする団体

PTAとは、**わが子を含むすべての子どもたちが、豊かな学校生活や地域生活を送れるよう**、保護者と教職員によって学校ごとに組織され、**会員の総意に基づき自主的、民主的に運営される団体**です。

加入は任意で、会員になればだれもが自分の意思で活動に参加できます。

子どもたちの健やかな成長を願い、民主的に話し合いながら活動することで、保護者も育ち合うことを目標にしています。

また、「だれもが参加可能」な環境でも、参加についてはその都度個々の判断に任されます。さまざまな事情から活動に参加できなくても責めを負うものではなく、強制力はありません。

初めての保護者にもなじみやすいよう、PTAの目的や活動内容を分かりやすく説明することが必要です。

Point!

「すべての子どもたちの幸せ」のために活動する開かれた任意団体。

PTAの位置づけ

「子どもたちのため」の組織だと理解できるものの、団体の位置づけや役割は？ 具体的な立ち位置はどうなのでしょう？

学校から独立した組織

それぞれの学校のPTA(単位PTA、略称:単P)は、青少年団体や女性団体などと同じく、「社会教育関係団体」と位置づけられています。社会教育とは、学校教育以外の教育を指し、多様な人々により、多様な場や、さまざまな機会で行われている教育です。

子どもたちのために保護者と教職員が互いに協力し、学び合い、育ち合うのが本来の役割です。

「社会教育関係団体」は、公の支配に属さない団体として法律に定められていますので、単Pも学校とは別の独立した組織で、個々の規約(会則)を持ち、ほかの団体や機関から統制や干渉を受けません。

Point!

「学び合い」をモットーに、「社会教育関係団体」として自主的、民主的に運営される独立した組織。

PTAは何ができる？

PTAは学校とどのように関わり、どのようなことができるのでしょうか？

学校と連携、協力してよりよい環境を

学校での主役はもちろん子どもたちです。学校という舞台上で一人ひとりが輝けるよう導いてくれるのが、教職員です。では、PTAに何ができるかという、**学校教育を理解し、子どもたちが学校や地域全体でより豊かに育つよう、環境を充実させる**ことです。

例えば

- ・夏まつりの実施
- ・SNSの使い方に関する勉強会の開催
- ・子どもの交通安全を守るための「旗振り」
- ・放課後、地域の遊び場で安心して遊べるようパトロールを実施

学校が内外での活動を単独で行うとなると大変です。そこで、PTAが学校や地域との窓口になり、連絡を取り合い、情報を共有し連携を図ることで、スムーズに活動できるのです。

また、**学校でどのような教育活動が行われているか教職員と保護者間の連絡、情報交換も大切**です。学校の活動をサポートし、課題があれば会員同士で解決策を練り、場合によっては学校に**改善策を提案**します。

ただし、学校の運営や経営、人事には干渉しません。あくまで、学校の最高責任者は校長であり、学校とPTAは**相互に自主性を尊重し合う**ことが大切です。

なお、学校という公の場で活動するため、例えば、特定の政党や宗教を支持したり、営利行為に利用したりするなど、**政治、宗教、営利を目的とした活動**することは禁止されています。

Point!

学校や地域への窓口となり、情報交換しながら相互理解。改善策などを提案し、子どもたちの育つ環境を整備。非政治・非宗教・非営利は大前提。

会員、非会員について

会員は家庭単位でカウント

保護者ならだれでも参加OK

保護者の会員数は、ひとつの家庭を1会員として考えます。子どもが兄弟姉妹で複数在籍していても会員数は1です。

各家庭のうちメインで活動する人を登録するPTAがありますが、原則として、父親、母親、または祖父母など、保護者であればだれでも参加可能です。

近年、家庭内で情報を共有し、父母が交代で委員活動に出るケースも増えているようです。活動を分担すると一人あたりの負担が軽減されるだけでなく、地域で子どもを見守る目が増えることにもつながります。

会員にならないとどうなる？

会費を使う事業、印刷物の配布、保険の適用などに関係

PTAはその学校の全児童、全生徒のために活動します。子どもたちに直接関わることは原則、会員、非会員の区別があってはなりません。しかし、各事業の実施にあたっては、各会員から会費を集め、運営、活動資金に充てています。会員でなければ会費は集金されませんので、以下のような課題が生じる場合があります。

- *PTAが費用を負担する行事に参加する場合
- *PTA発行の広報紙や印刷物を配布する場合
- *PTAが購入した物品を児童・生徒に贈る場合
- *PTA行事に参加した際に事故があった場合

非会員には、その都度実費を負担してもらうなど、課題や対応を話し合いながら、事前に情報提供できるといいでしょう。

会員にとってプラス面は？

column



経験者の感想の一例を紹介します。

子育てに役立つ

PTA活動を、「やって良かった」理由の多くは、

- *学校のことが分かった。
- *担任の先生と話す機会ができた。
- *教職員や子どもの友達の顔と名前が一致して、子どもと共通の話題が多くなった。
- *活動を通じて親同士が顔を合わせているうちに、「最近、うちの子○○なんだけど……」と子どもの様子を話すことが増え、子育ての悩みを共有したり相談したりするきっかけが生まれた。

他学年の親と関わる機会も増えるので、子育て体験や、進学先、受験などの情報を聞けることもあります。また、地域に顔見知りが増えれば、災害など万が一の時にも安心です。

「顔の見える和やかな関係」は、子どもにも安心感をもたらします。

自分と子どもの成長につながる

初めは様子がわからず敬遠していても、一歩踏み出すと印象が変わることもあるようです。

- *経験者に「大変じゃなかった」と聞き、始めてみたら案外楽しかった。
- *さまざまな人と知り合い、多様な立場や考え方があると分かり視野が広がった。
- *自分の都合だけで物事を見なくなり、わが子に寛容になった。
- *分からないことがあっても、経験者が親切に教えてくれた。
- *どんな意見も否定せず、丁寧に聴いて調整する姿勢が養われ、再就職時や子どもと接する際に活かせた。

「分からないことは人に聞いて頼っていい」「人の話を聞くことは大事」という実体験は、自分が子どもにアドバイスをする立場になった時に役立ちます。

Point!

他学年の保護者とも知り合えるなど、地域のつながりが広がる。親子の成長にもプラスに。